週刊ビル経営

平成30年 7 月23日

『第53回ＲＥＢ－1000社の会」開催

業界を変える「不動産テック」をテーマにセミナー展開

SD建築企画研究所 東京都渋谷区

今月18日、建築・不動産事業を展開するSD建築企画研究所（東京都渋谷区）代表取締役の清水修司氏が理事長を務める「第53回ＲＥＢ－1000社の会」が、「ＳＹＤホール」で開催された。

「ＲＥＢ－1000社の会」は、建築・不動産事業者による勉強会や情報交換、業界内での人的交流の促進を目的とした会で、これまでも年に数回定期的に開催されてきた。１部、２部と講演が行われ、その後は参加者全員による交流会が実施される。今回の第1部は『仕事消滅！』～「ＡＩ失業」

代表取締役 清水 修司氏

前夜―これから5年、職場で起きる事～」と題し、大手企業などで経営戦略コンサルティングを担当する百年コンサルティング（東京都新宿区）代表取締役の鈴木貴博氏による講演が行われた。

鈴木氏は冒頭で「現在多くの専門家が、ＡＩ（人工知能）の進化によって仕事の消滅が進むと予測している」と指摘する。特に従来までは、あまり専門性の高くない単純労働がなくなると思われていたが、専門性が問われる銀行の融資担当者や弁護士、会計士、税理士、保険の審査担当なども今後はＡＩに取って代わられると述べた。不動産の分野においては、不動産ブローカーがなくなる仕事のリストに該当。危機感を募らせた参加者も多く、その様な予測が立てられる背景について鈴木氏は「現在日本が抱える少子高齢化や人手不足による倒産などの問題解決にＡＩが有効な手段であると考えられており、現在進行形で国及び大手企業を中心に普及が進んでおります。その延長線上に先ほど述べた仕事の減少が考えられ、人件費等々の削減にも効果的であることが認知されています。加えてスマートフォンやＡＩの普及が進んだ結果、誰もが高いレベルを簡単にこなせるようになりました。その分、高いレベルの仕事でも給与はグンと下がり、正規社員でなく非正規社員でも対応できることから、非正規社員の増加も進むでしょう」と語った。

また第2部は「『不動産テックで変わる！これからの不動産業界！』～テクノロジーが不動産取引をこう変える～」と題し、リーウェイズ（東京都渋谷区）代表取締役の巻口成憲氏が講演した。

巻口氏は初めに日本の不動産インデックスの不透明性を指摘しつつ、「この不透明性を解消すれば国内の不動産市場は更に成長する」と語る。そのためには不動産テックの活用が重要で、同社のこれまで行なった事例についても語り、不動産投資における未来図についても述べた。

巻口氏は「不動産テックを活用すれば、投資用物件の購入・管理・運用・売却におけるタイミングなどの見極めや資産推移予測も簡単に把握できます。投資判断に必要な情報が全て解り、将来の収益シミュレーションも簡単に立てられますので、不動産業界は更に成長する」と力強く語った。短い時間内に駆け足で行った講演であったが説得力は抜群で、講演後には名刺交換を行おうと長蛇の列ができるほど盛況であった。

そして今回の講演終了後も情報交流会が盛大に開催された。理事長を務める清水氏は「今回は不動産の今後を左右するＡＩに焦点を絞り、『ＲＥＢ－1000社の会』を企画しました。非常に盛り上がった会となりましたので、今後も同様に精力的に開催して行きます」と語った。